

教えるは 学ぶの 半ばなり

R7 南信教育事務所だより

教学半也



ご意見はコチラから

令和8年2月10日

No. 21

校内研究に関わる
全ての方対象

自校の研究の歩みを振り返り、来年度へつなげる

～第3回研究主任研修会 下伊那地区：1/13 諏訪・上伊那地区：1/19 開催～

「自校の歩みを振り返る」と「研究主任としての来年度の展望を見いだす」ことをねらい、今年度最後の研究主任研修会をオンラインで開催しました。前半は、各地区3名の先生方の実践を聞きながら、研究主任としての今年度の歩みを振り返り、後半は、ブレイクアウトルームに分かれて本年度の自校の歩みを語り合いました。

【前半】 下伊那：千代小・F先生 川路小・M先生 喬木中・K先生 各地区3名ずつ
諏訪・上伊那：西春近南小・G先生 豊田小・T先生 富士見中・K先生 の実践発表



実践発表から、本校の研究と重なる部分があり、今年度の方向性でよかったと自信につながりました。一方で、子どもと共につくる研究の実践をお聞きし、「子どもを大切にすることはどういうことか」を考え直すきっかけをいただきました。

発表校は、子どもの学びの様子を職員で共有して、目指す授業像を全職員が一緒に創っていくことを大切にしていました。子どもの姿を中心にして「こんな学校にしたい」という考えを気軽に協議できる職員組織になっていくように取り組みを考えたいです。



【後半】3～4名で研究主任としての今年度の歩みの語り合い



子どもの学びの姿を職員で共有して、職員が同一步調で研究推進を行うことが話題となり、自校の取組と似ていることから、**今年の取組の成果が再確認できました**。進めてきた研究の方向が「これでよかったのだ」という自信につながり、やる気が出ました。

各校の「探究」について語り合う、貴重な機会となりました。研究主任として、「教職員同士をつなぐこと」に加えて、「先生方の実践や子どもの姿と学校教育目標や資質・能力をつなぐこと」といった、次年度の**研究主任としての役割が明確**になりました。



今回参加された先生方からは、「自校と他校の取組を比較することを通して、**自校の取組のよさを再確認するとともに、来年度以降の校内研究の見通しをもつことができた**」という感想が多く寄せられました。また、「研究主任は孤独」と話されている先生もいらっしゃいましたが、「他校の実践や研究主任の歩みを聞き合うことで、**自分の歩みを振り返り、次年度の見通しや希望をもつことができた**」と話されていました。

今年度は、研究主任同士のつながり・ひろがりを意識し、「対話」を中心に据え、3回の研究主任研修会を開催してきました。ぜひ、今後も研究主任同士のつながりを大切にしながら、子どものための研究推進を行っていきましょう。

【お知らせ】

第5回on-lineでつながり、ひろがる研究の輪（今年度最終回）

2月20日（金） 16:00～16:40 オンライン開催

来年度に向け、研究主任同士で情報交換を行いませんか？ぜひ、ご参加ください。
参加申し込みは、右の二次元コードからフォームにてお願いします。

参加申し込み
二次元コード



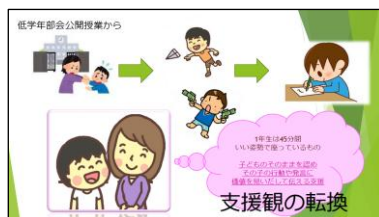
伊那市立西春近南小学校 G先生
「いっしょにまなぼ」
子どもの主体性を支える教師自らのあり方



【発表の概要】

- ・校内研究では、毎回異なる3～4人の職員で、子どもの姿を語り合う場を定期的に設ける。
- ・運動会・音楽会の企画段階から子どもも参加し、子どものアイデアを教師と共に具現化。
- ・子どもが「主体的に学ぶ」とはどのようなことかを授業を見合いながら考え合う研修。

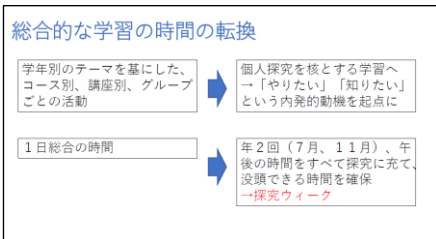
諏訪市立豊田小学校 T先生
自己肯定感・自尊心を育てる
ポジティブな行動支援（PBS）を基盤に



【発表の概要】

- ・豊田小ならではのPBSを模索し、低学年部会と高学年部会に分かれ、研究を推進。
- ・先生方の、教室環境の工夫や実践授業での子どもとの関わりの具体の紹介。
- ・研究を通して見えてきた、「子どもに寄り添う支援」の整理と共有。

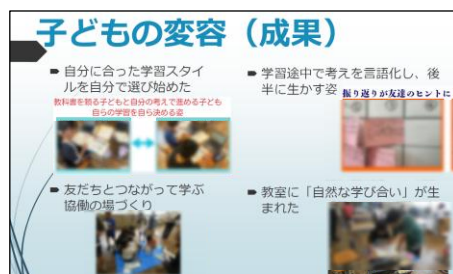
富士見町立富士見中学校 K先生
「やりたい」から始まる探究
富士見中学校の挑戦と、生徒の姿から見た未来



【発表の概要】

- ・「個人探究」を中心とした総合的な学習の時間への転換に向けた挑戦。
- ・学校全体で「総合的な学習の時間」や「探究」の質を高めていくための工夫。
- ・総合的な学習の時間と教科の学習をつなぐための取組や葛藤。

飯田市立千代小学校 F先生
子どもの学びを止めない学びのデザイン
～一人ひとりに合った学習スタイル～



【発表の概要】

- ・子どもが学びの主体者となることを目指した、子どもが学ぶ場所や方法を「自己決定」できる環境づくりや自由進度学習への挑戦。
- ・子どもの姿で語り合うことが、先生方の「次はこれをやってみよう」を生み出す。

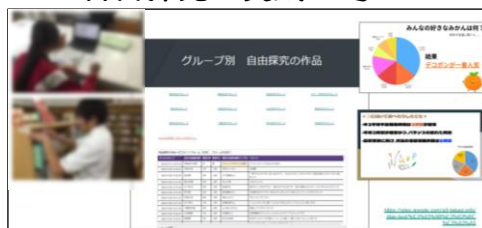
飯田市立川路小学校 M先生
自らの思いや考えをもち、
伝え合う児童の育成



【発表の概要】

- ・児童の実態把握のひとつとして、児童アンケートを実施。アンケート結果も踏まえて今年度の成果と課題を全職員で検討。
- ・学年を超えて職員同士が学び合う。
例）教科の縦の系統性を全職員で確認。

喬木村立喬木中学校 K先生
対話を重ねながら進めた校内研究
— 自由探究の実践を通して —



【発表の概要】

- ・生徒の主体的な学びの実現に向け、家庭学習のあり方を生徒とともに話し合い、その延長に「自由探究」が生まれた。
- ・夏休み中に大学教授を招いた研修会を開き、生徒の主体的な学びを支えるために教師も意識改革に取り組んだ。

「子供の発言への問い返し」で紡ぐ授業

～算数・三角形や四角形を見つけ説明する授業場面より～

「『こういうふう』ってどういうこと？」…①

「Bさんはどういうことを言ってた？」…②

○小学校2学年の子供たちは、8つの図形の中から三角形や四角形を見つけ出し、それらがどうして三角形や四角形と言えるのかを説明するという課題解決に取り組みました。

担任のS先生が、子供の発言やつぶやきを丁寧に聞き取る中で発したのが冒頭①の言葉です。抽象的な表現を、具体的な言葉で表現するために発表者に問い返しをしました。

また、「角(かど)が曲がっているから(右図)は四角形でない」と弁別したA児に対し、S先生は、「机って四角いよね。4つの隅は丸いけどかどって言うじゃん。角が曲がっていると四角形と言えないの？」と問い返します。それを聞いたB児は、「4本の直線だけで囲まれているときに四角形って言うんだよ」と、先生を説得しようとしています。

B児の発言を聞いたS先生は、少し間を取り、全員の顔を見渡した後、冒頭②の問い返しをしました。B児の「直線だけ」という、教科の本質に迫る大切な発言を、他の子供たちが聴いているか確かめるための問い返しをしながら、子ども達の言葉で数学的な表現を創り上げていきました。

【キラリポイント！】

本単元で育成を目指す資質・能力の1つに「図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考える」とあります。前時、格子状に並んだ点を結び、三角形や四角形をかく活動を通して、直線や角(かど)に着目したことをもとにし、本時、根拠をもって弁別する子供たちの姿がありました。

子供の発言やつぶやきを最後まで丁寧に聞き、より具体的な表現を追究したり、友の発言を聞きながらより数学的な表現を創り上げていったS先生や子供たちの姿がキラリと光っていました。



子供の主体的な学びにつながる「単元を貫く学習問題」設定の工夫

～社会科（地理的分野「世界の諸地域ヨーロッパ」）の授業より～

初任者のT中学校、K先生は、単元の最後の授業で、単元を貫く学習問題「日本もE Uのようにアジア連合をつくるべきだろうか」を子供たちに問い直しました。すると子供たちは、「労働力が減少している日本にも賃金の高さを求めて人々がやって来て、税収が増えると考えられるからつくるべきではないか」、「統合することで生じる様々な負担金を、日本は多く支払う側になると考えられるなどデメリットの方が多いので、つくらない方がよいのではないかなど、調べてきたことを根拠にし、日本の現状に照らし合わせ、次々に自分の言葉で語り合いました。

このような子供たちの姿の背景として、K先生が単元の導入場面で、「E U加盟を喜ぶ国」と「E U脱退を喜ぶ国」の写真を子供に提示し、この両者を比較することで生まれた子供の気付きを基に問いへとつなげていったことや、さらに「日本も統合すべきだろうか」と投げかけ、日本と結び付けて考えさせたことで、子供と事象との距離を近づけながら、単元を貫く学習問題を子供と共に設定する工夫がありました。



【キラリポイント！】

子供自身の気付きが問いにつながったり、事象と自分との距離がぐっと近づいたりすると、子供たちは主体的に課題追究に向かっていくことができます。単元のまとまりを考えて単元を構想し、導入場面で子供と事象との出会いを大切にしたいK先生、そして、追究したことを根拠にして自分の言葉で語り合う子供たちの姿、どちらもキラリと光っていた単元の終末でした。

